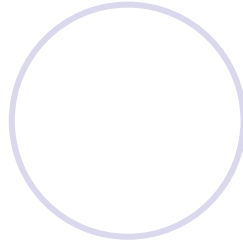
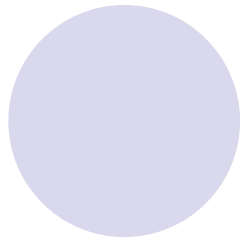


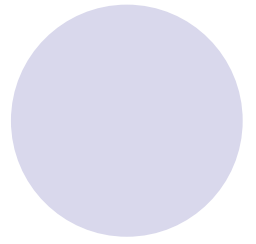
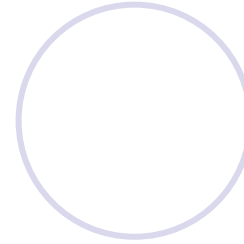
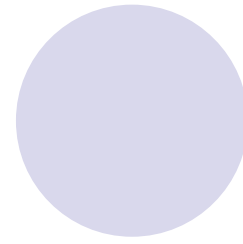
# 情報リテラシー教育への 看護職者のかかわり

聖路加看護大学大学院  
看護研究科 修士課程  
印東桂子

2007年6月14日



# 目次



1. 背景
2. 事例
3. 情報探索行動のモデルに当てはめて
4. 日本の情報リテラシー教育の現状
5. ディスカッション

看護職者として、情報リテラシー教育にどう  
貢献していけるか？

# 背景

市民対象の健康相談で

「どこの病院がいいでしょう？」  
「おすすめの診療所を  
教えてください。」

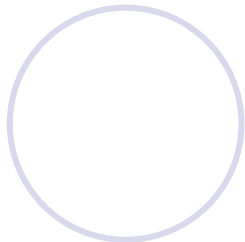
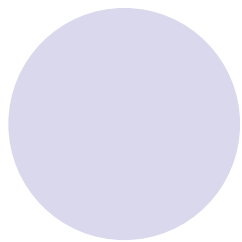
産業保健の  
健康相談で

「この辺でいい病院  
はありませんか？」  
「どのクリニックの  
評判がいいですか？」

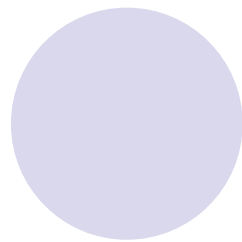
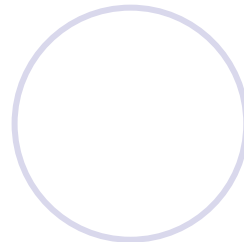
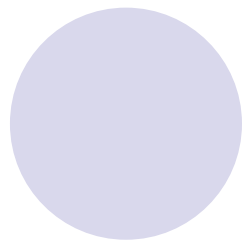


友人からの相談で

「～の症状なんだけれど、いいクリニックを知ってる？」  
「どんな病院が  
いいかな？」



# 事例



とある日...



なんだか耳の調子が  
おかしいな。  
音や自分の声が  
いつも以上に響く。  
耳閉塞感も強いなあ。

不快だなあ!



# 事例

- Google: “耳鼻科” and “〇〇(土地名)”  
→約1,260件

- ・上位5位:

- |                                  |    |
|----------------------------------|----|
| ①『Google map』 〇〇駅付近の耳鼻咽喉科        | 4件 |
| 地図縮小率を下げて                        | 6件 |
| ②『はてなマップ』                        | 1件 |
| ③『病院検索・歯科検索 ホスピタ.jp』             | 1件 |
| ④『病医院&お医者さん検索 e-doctors-net.com』 | 1件 |
| ⑤『〇〇で評判の病院 口コミ情報』                | 1件 |

- ・上位30位までみてみると・・・

- ・SNS : 登録 要3件, 不要4件
- ・商業ベースの病院検索サイト:登録料 要5件, 不要4件
- ・検索サイト : 3件
- ・その他 : 10件 (アクセス不可3件、不動産3件、市のHP1件、関連なし5件)



# 事例

- Okweb: “耳鼻科” and “〇〇(土地名)”  
→0件

- Okweb: “耳鼻科”  
→360件

Q. お勧めの病院について 18件

A. 検索サイトの紹介 のべ3件

書籍の紹介 のべ2件

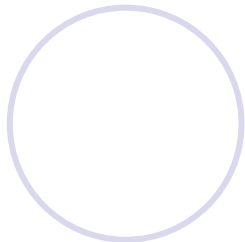
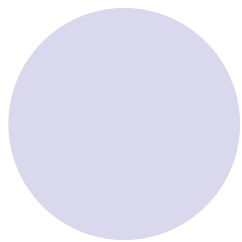
特定の病院紹介 のべ4件

- Okweb: 『[検索サイトについて](#)』

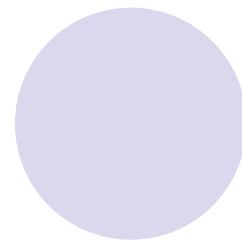
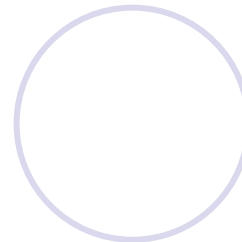
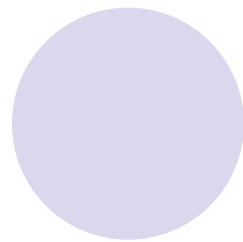


## 事例

- SNSで、登録制のHPの口コミ情報から、受診する近医をAもしくはBクリニックに絞り込む。
- SNS内での「評判がよい病院」の条件
  - 「通いやすい」
  - 「感じがよい先生」
  - 「時間を一人ひとりに割いてくれる」、  
「丁寧に診察してくれて、説明も良くしてくれる」
  - 「過去に満足のいく治療を受けた」



## 事例



- 地元の友人へメール  
→AとBクリニックを勧められる。
- 市役所へ  
→市で作成している医療機関情報を獲得。  
自宅からの通院圏内に7つ病院・診療所。





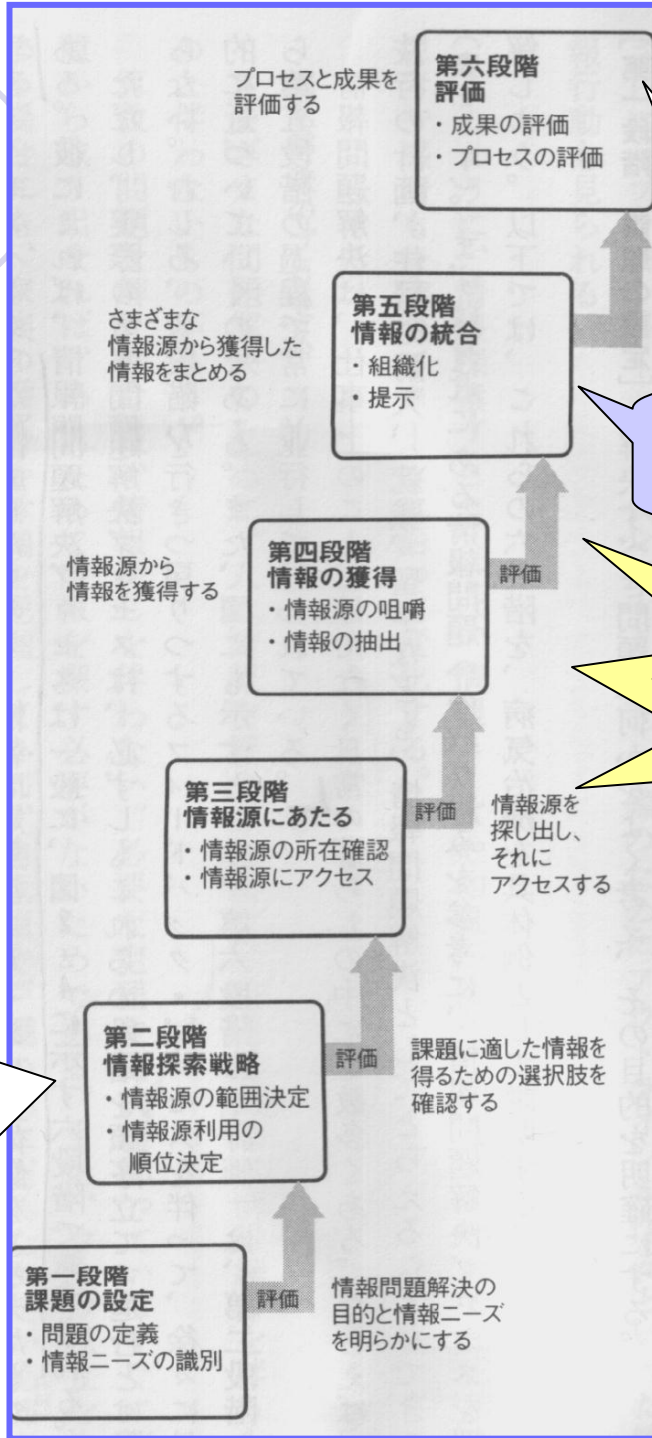
## 事例

- 商業ベースの病院検索サイト
  - Aクリニック紹介 0件
  - Bクリニック紹介 3件 ・ 小児
- AクリニックHP 成人
- 受診クリニック決定！

# 情報問題解決 プロセス

・緊急性は高くないが、同じ症状が1週間続いているため、クリニックの受診は必要。  
・情報源は、①インターネット、②地元の友人、③市役所。

耳の不快感を改善するため、近医の適切な耳鼻科を選択し、受診する。



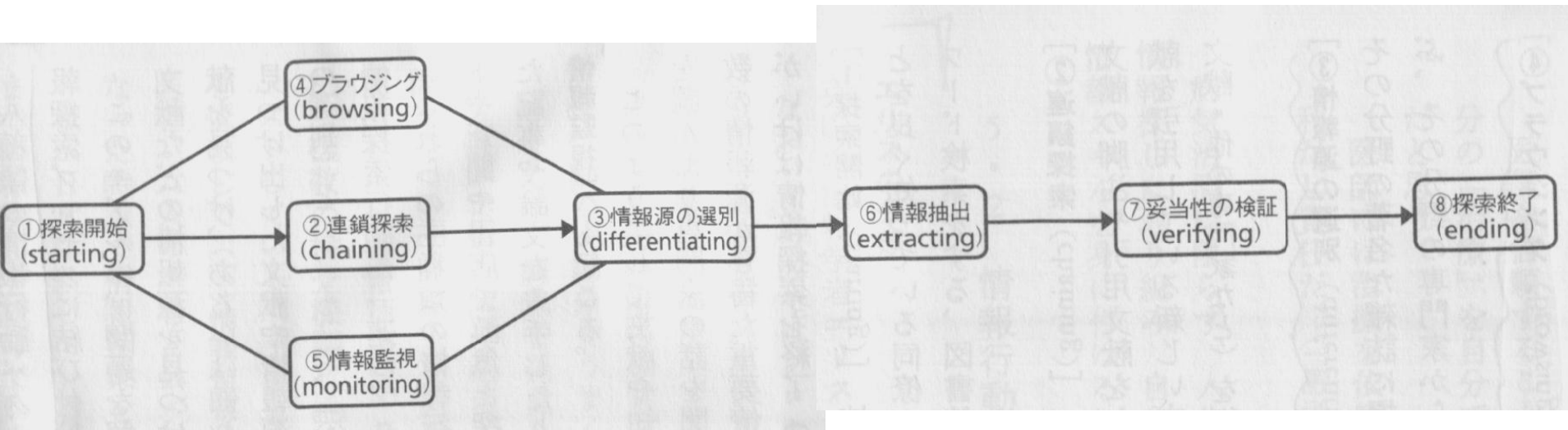
選択クリニック受診。適切な治療を受けられ、自分の情報問題解決プロセスに満足。

情報を比較、検討し、受診クリニックを決定。

インターネット: ウェブページの信頼性の配慮

(図1 ビック6モデル<sup>1)</sup>)

# 情報検索プロセスモデル



(図2 ウィルソンの情報探索プロセスモデル<sup>2)</sup>)

# 日本の情報リテラシー教育<sup>3)</sup>

- 情報活用能力<sup>3)</sup>：  
情報および情報手段を主体的に活用して  
いくための個人の基本的資質。
- 情報活用能力の育成の3つの流れ<sup>3)</sup>：
  - ① 学校図書館での生徒の情報利用指導
  - ② 総合的な学習の時間における「調べ学習」を通じた問題解決型の学習
  - ③ 教育カリキュラム編成の3本柱：  
「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、  
「情報社会に参加する態度」



# ディスカッション

看護職者として、  
情報リテラシー教育にどう貢献していけるか？

# 引用・参考文献

- 1) 三輪眞木子:情報探索のスキル. 中公新書. 2003. p.60.
- 2) 同上:p.170-171.
- 3) 同上:p.176-180. p.193-203.
- 4) <http://journal.mycom.co.jp/news/2003/02/28/16.html>  
高校で始まる「情報」の授業—情報教育の遅れは取り戻せるか(1)
- 5) [http://juce.shijokyo.or.jp/LINK/journal/0203/03\\_05.html](http://juce.shijokyo.or.jp/LINK/journal/0203/03_05.html)  
特集 高等学校における教科「情報」への取り組みと大学との連携 教科「情報」実施むけて